

入善町 議会だより

3月定例議会

No. 35号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会
富山県下新川郡入善町入膳3,255
☎ 0765 (72) 1100



「願いをこめて」

(目川地内)

ページ案内

3月定例会で決定したこと	2ページ
討論	3ページ
一般質問	4～11ページ
視察記	12～13ページ
委員会審査報告	14ページ

57年度予算決まる

一般会計予算 54億9千200万円
 特別会計を合せ 66億6千429万円

定例会のあらまし

3月定例会は3月8日から12日間の会期で開かれました。本会議では、町長の施政方針演説に引き続いて16人の議員によって一般質問が行われました。

今回、町長から提出された議案は昭和57年度予算を初めとし27件で、議員提案による一件のほか、請願13件、陳情2件が審議されました。これら議案などは、審議の結果、すべて原案どおり可決されました。

こんなことが決まりました。

主なもの

◎昭和57年度各会計予算
 主な事業などは4月号広報に記載してあります。

◎昭和56年度の最終補正
 補正額は2千729万6千円の増額で、これで予算総額は56億5千39万円となりました。
 主なものは、前年度繰越金をもって約6千万円借入金の繰上返済しました。

◎入善町長選挙立合
 演説会条例

立候補者が一堂に会して施策等を述べあう機会を設け、有権者に投票する判断の材料とするものです。

◎国民健康保険条例の一部改正

国民健康保険加入者の給付水準

◎「町営霊柩車使用に関する条例」及び「廃棄物の処理及び清掃に関する条例」の一部改正
 人件費及び諸物価の高騰による

の向上の為助産費を現行の8万円から10万円に増額支給するものです。

◎2級河川の指定について
 平曾川の一部分が県の管理となりました。このことにより地元や町の負担が軽減されることになりました。

る経費の増高から霊柩車の使用料を4千円から5千円に。
 し尿汲取料を18リットルにつき64円を70円に、1回の最低汲取料を1千200円を1千400円に値上げしました。



単位：千円

区 分	57年度予算額	56年度当初	前 年 比
一 般 会 計	5,492,000	5,410,400	101.5
国民健康保険会計	1,137,000	1,151,000	98.8
簡易水道会計	14,000	13,500	103.7
育英奨学資金会計	2,675	2,550	104.9
土地取得会計	5,660	5,670	99.8
分譲宅地会計	3,760	6,810	55.2
墓地公園会計	9,195	16,830	54.6
合 計	6,664,290	6,606,760	100.9

昭和57年度予算総括表

人 事

入善町固定資産評価審査委員会委員は、昭和57年3月19日で任期満了となるので後任に入善町下飯野63番地塚田正藏氏(大正8年11月10日生れ)を同意した。

討論 討論

対反 不急の支出は削減せよ

九里郁子議員 (共産)

国の所得減税見送り、公共料金値上げ、福祉切り捨てで5年間に税は約24倍となり家計を圧迫し異常な軍拡予算が国民生活を破壊している今日、消費の不況、減反転作は農家経済を圧迫し、建設土木事業の低迷等、町民の暮らしに厳しいことが予想され、57年度予算は福祉予算に努力が見られるが臨調路線の国民に犠牲を強いる政府方針に添っている。

役場玄関の自動化取り止めが、障害者をがっかりさせ、長時間保育も居残り保育に積極性がなく要望に添えていない。

賛成 健全財政の堅持

福沢万次議員 (社会)

57年度予算は、国の財政再建計画の影響で町税の伸びやみ、国県支出金の落ち込みが大きく、15%の伸びは全体に堅く見積られた予算である。

国の公共事業抑制で農林水産業費、土木費の約5億円減は止むを得ない。投資的経費の半分近くが、上青小学校と町営住宅の建設でし

なり、住民生活に大きな影響が起き公害等に十分検討されることを要望して、上程された案件全て賛成する。

賛成 より一層努力を 小林与三雄議員 (自民)

昭和57年度予算は、新柚木町長白らの意志で初めて編成し町民が期待していたが、結論から申し全く不満である。

予算の伸び15%は、国・県の6.5%に比し、また、町56年予算現計56億5千39万円のほかに1億円の増収、特別交付税1億3千100万円が示され、併せて58億5百万円に推定される。経済成長がマイナスにならぬ限り現計予算分は見込め

たと思う。投資的経費37%は、前年41%、55年41%より低いし、投資的経費中補助事業で上青小学校建設の増加分を差し引くと約5億円の減少で、町単独の1千200万円の増加でも補えない。健全財政堅持にウエイトを乗せたとする。

予算中、民生費は8.2%増だが、老人福祉には物や金は一つの手段で本来の福祉でないことを認識し、老人保健総合対策費は70%が人件

議会のうごき

- 2月 8日 文教厚生委員会行政視察 (瑞玉県宮代町ほか)
10日 新任議員研修会
15日 総務委員会行政視察
17日 (滋賀県栗東町ほか)
18日 産業建設委員会行政視察 (愛知県田原町ほか)
20日 議会運営委員会
23日 広域圏議会(魚津市)
24日 議員全員協議会
26日 議員全員協議会
3月 2日 県議長会総会
5日 黒部川水利調査特別委員会
8日 議員全員協議会
9日 朝日町文教厚生委員会視察 来庁
9日 国民健康保険会計は、毎年上昇していたが、今回の減額はまことに喜ばしい。保健活動が実を結んだと思うが、なお、一層成人病予防に力を尽してほしい。
国民健康保険会計は、長期にわたって一般会計の負担を覚悟し、分譲に努力が、必要である。
議員報酬条例の改正は、審議会の容申もあるが、議員の住民活動が要求される。議会活動に一層努力することが大切である。
以上の意見を述べて全案件に賛成する。

新年度

予算・総合計画に質問集中

町政一般質問

昭和57年度予算の基本は

岡島松次郎議員（自民）

自民党議員会代表質問

問

我が国を取りまく情勢は、経済摩擦など非常に厳しいものがある。国の予算に於いても、行財政改革により実質的なゼロシリング予算となった。我が町の今年度総予算額は、それら国の影響を受け66億6千400万円と昨年比0.9%増、一般会計だけで見ると54億9千200万円とわずか1.5%の伸びである。町長の積極的な政治手腕を信賴するが、今後も引き続き生きがいある町づくりのため多くの事業に取り組む必要がある。その基本としたものは何か。

町長

昭和57年度の予算編成は、国の予算方針と入善町総合計画の基本理念に基づき、まず第一に上育小学校建築、駅南住宅建設事業など投資的事業を予算全体の37.8%とした。第二に健全財政の堅持と行政の合理的効率を図るため、行財政検討委員会を設置し、機構の一部を改善した。第三に義務的経費の増高に対処するため、物件費や補助費の削減に務めた。第四に清潔公正、町民との対話を密にしながら町民総参加のもとに、21世紀に向けて新しい総合計画に取り組む策定費を見た。

問

近年新聞、テレビ等で連日のように青少年の非行が報道され目に余るものがある。青少年の非行防止のため、家庭や地域社会とも密接な連絡をとりながら、親と教師の話し合い、親と子供の心のかよひあう暖かいふれあい、又教職員、の資質向上と学校教職員研究会の活動に力を注ぎながら、立派な人造りと人間関係を育てるよう町民総ぐるみで行わなければならない。



完成した駅南住宅

その対策を尋ねる。

町長

少年非行の低年齢化は大きく社会問題化している。ご質問のとおり学校教育だけに責任を転嫁するのではなく、家庭そして社会全体で対処すべきであり、町の行政の中でも対応していかなばならぬ。

教育長

親が共稼ぎなどのために、精神的なコミュニケーションが十分行なわれない。物質と精神面のアンバランスも原因の一つと考える。難しいことであるが、昔と違い親の方から大学に行ってくれと頼んでいる。親は権威をもって諭すべきである。PTAなどでも毎月2回教育相談の日などを設けている。

問

昭和57年予算は、国の一般会計予算6.2%、そして県の伸びから考えて3%程度増ぐらいと考

町長

情報公開条例の制定について

岩場 俊 議員（民社）

昭和中の町税であるが、前年度21%と大きく伸びたが、今年度は19%増である。税の伸びの鈍化は、予算の伸びの

低下の原因と思う。それを裏付ける

かのように、逆に地方交付税が昨年の8.5%から4.2%と伸びている。需要額が増えたにも拘らず、基準収入額が停滞しているからである。来年も今年のようなであれば、財政力指数は0.4を割るのではないかと。財政力の指数向上への施策を今年予算にどのように現されているのか。又、債務負担行為を含めた公債比率14%を下げて行く努力と、このような財政力から脱却する方策について伺う。

町長

国や県の支出金が、経常的なものは前年度、投資的な経費の事業費、量が減ったこと。農村モアル、林道、漁港各事業の起債充当率が60%からゼロ、中町街路債が60%から30%になり、一般財源だけで5千200万円が必要になり、その分だけ町単事業に振り向けることができなくなり、これらの問題が15%増の大きな原因である。

財政力を豊にするには、町税収入を高めることにつきるが、勤労所得の期待はできない。近道は、企業の誘致であり、雇用促進にもなり一石二鳥の効果があるが、すぐ立地するともわからないので、町の経済顧問の方にも相談し努力したい。予算でも、工場誘致費を若干計上した。公債比率を下げる為、今回の補正で繰り上げ償還した。今後の債務負担行為については、極力健全財政の基本を尊重し、慎重に構えたい。

問

情報公開条例の問題について、さる12月議会でも提起したが、行政改革の根幹をなすものは、情報公開である。町長は、時期尚早であり現行法の中で最大限公開するという考えを引続きもっているのか。3月5日に山形県金山町が条例の制定をしたことが大きく報道されている。その背景には、住民の知る権利があり、町の行政についてすべて情報を伝え町政に関心を寄せることよって参加型の行政を目ざすところから

新総合計画の構想は

石川昭男議員(自民)

昭和58年から、新しい町づくりの将来像を確立するために、現行基本構想と新構想の違いを、どのように認識されているのか。

新構想では、例えばテクノポリス構想を推進するとか、福祉又は人づくりの町など、従来と異った考えがあるか。単なる文章表現やキヤッチフレーズが異なるだけでは大差がないので、新構想の基本を問う。

基本構想にもとづく事業内容の選択基準について、住民の要望と財政的裏づけを考え、体系づけ政策の優先順位をどう決めるかである。それには、著しく立ち遅れている学校の鉄筋化でないか。あと4校

きている。そのことよって、進む方向と発想の転換が図られると見え、早速に検討、制定する考えは。

町長

開かれた行政のもとで住民が情報を得ることは重要であるので、公約の上でも、対話や住民参加を基本姿勢としている。

財政事情の公表も広報を通じて知らせることにしたが、公開条例制定に向けて検討委員会を早速につくりたい。

建設すると仮定しても、15年ばかりかと思われるが10年ぐらにならないか。又、今後建設される小学校に、幼・小一貫教育の見地から幼稚園も併設すべきでないか。

第二に、公益的団体や民間の投資を誘発させるべきでないか。これには、分譲宅地造成や都市計画がある。宅地の造成は一般の住宅需要を充足するし、都市計画は区画整理、商店整備、公共施設整備があり何れから始めるか問題だ。

第三に、本町の立地条件を生かす特色ある町づくり事業である。それには、豊富な工業用水、勤勉なる労働力をもって、公害のない企業を誘致し地域産業の核とする。その経済効果は家内工業に波及し、

所得と雇用の拡大につながる、又、民生においては高齢化社会に対応して、今後建設が予想される老人福祉センターに、健康センターを包括し、有機的に結びつけるべきである。

総合計画の策定に当たっては、庁内のスタッフ編成は、職制にとらわれることなく、先見性と企画力のある職員を登用し、又、専門委員など外部知識の導入を計るべきである。

町長

新しく策定する総合計画においては、今までの実績を十分評価をし、それを基本に、かつ町民の要望を入れ、福祉の町づくり、快適な環境の町づくり、活力ある産業の町づくり、香り高い文化の町づくりの4本柱としたい。

選択基準については、行政は行政の立場で将来の見通しを立てたいが、町民のアンケート、地区ごとの懇談会等で町民の意見を十分聞きたい。

学校建設は、振り向ける財源が限られている中で、15年ばかりが短縮に努力したい。

幼稚園、保育所の問題は大きな仕事であり、幼児教育本来の目的として幼稚園の建設ということも考えていかねばならないし、保育所建設も、昭和58年に青木をはじめとして、老朽化のものは逐次改築したい。近い将来8号線から上に新設も考えている。

行きたい。都市計画事業も同じ考えであるが、中央公民館、独立図書館の建設も計画に入れ、香りの高い文化の町づくりとして行きたい。

第三には、IC産業である富山日本電気も、第三次の拡張をしており喜んでいられる。関連の下請企業も育成されようとしている。

老人福祉センターは、昭和58年に計画しているが、健康センターとの結合は前向きで考えたい。

計画のスタッフについては、兼職を含めて6名で作業に入っている。審議委員は、女性を含め広範囲なものとした。

今後の学校建設は、また15年か

かるとなれば、30年の格差ができて問題だ。又、分譲宅地100区画をつくとすれば20億円動く、又、交付税、町民税、固定資産税で4千万近くなり、その波及効果は大きい。早速に取り組む必要がある。

又、老人福祉センターと健康センターは、結合しなければ管理面でも問題がある。

町長

人口増は町の勢いを示すものであり、分譲宅地には積極的に取り組むたい。

健康センターを、老人福祉センターに併設するのは、補助金や公衆浴場の制限を受けるなど問題もあるため、提案を尊重しながら考えて行きたい。



高齢化が望まれる老朽校舎

町職員の定年制について

佐藤学英議員（自民）

問

町の行政運営に当り、職員は志気と能率化を図ることは当然の使命であるが、去る11月国会に於いて地方公務員法の一部改正する法律が可決、交付された。

当然、我町の職員に対しても、昭和60年から国家公務員と同様に、60才を原則とする定年制度が導入されると思うが、今後はどのような対処されるのか。

町長

自治省からの連絡では、5月中旬に国の準則や通達がくるとのことであり、それを参考にして措置をとりたい。本町の勤奨退職は、一般職で、男55才、女50才、現業職は、男58才、女51才である。

退職年令が引上げとなるということは、職員の新陳代謝が阻害される心配もあり、昭和60年以降も一定期間60歳未満でも、勤奨退職をする者に、不利にならないことを考えながら進めて行きたい。

問

入善駅特急停車の実現については、昨年の本会議や他の会合でも質問、又、意見をしてきた。

停車については、大づめにきており4、5月にも発表されるのではないかと、挨拶の段階は終

つたと思うので、促進同盟会でも最後の陳情団を派遣する考えと、今一つ、停車の最大ポイントであり決め手である入善駅の売上げが伸びない。町の施策として講ずる必要がある。学校などが大手業者と提携するところにも問題がある。

町長

今年1月1日の新聞に、入善に特急が停車するようなニュースも出ていた。一月後も国鉄本社、地元国会議員の方々に会い、お願いしてきたところだ。今後も、特急停車促進同盟会の役員の方を始めとして進めていきたい。

入善駅の売上げについては、農協へもお願ひしてきたが、町民、又、諸団体の方にも協力をお願い

電力会社に対する協力問題

白又正司議員（自民）

問

関電、北電の発電所建設計画をめぐり同意並びに確認問題等町民にとつては最大の関心事である。黒部川沿岸土地改良連合では、冷水補償など26億5千万円で妥結したと聞く。我が町として今後どのような態度で対応するのか伺う。

町長

土改連の交渉が決着したので、山場を超えた見方をしてい。今後自治体として、昭和55年12月15日、両会社と電源開発の許可を得るため交わした確認書をもとに、我が町に有利な形で交渉に当りたい。

学校関係については、教育委員会とも打ち合せ、対応したい。



待ちこがれる特急停車

問

学校教育の中において、普通児童、特殊児童など何を基準に区分されているのか。単なる算数が出来ないなどによる教える側の問題、父兄の希望など、特殊学級について一考を要するのではないかと、今後の教育施策を伺う。

教育長

障害児の学校教育のやり方には皆と同じ教室で勉強、専門の学校に入る、それから普通学校の特殊学級に入る方法がある。いずれの方法を選ぶかは決断の迫られるところであるが、やはり能力に応じて時間をかけて辛抱強く手厚い教育を受けるのが最善と思うが、立前と本音が違いわりやるとはいかない面もあり父兄とも相談していききたいが、担任教諭の子供を愛する情熱なり、教育に対する熱意も決め手となると思うので、研修について力を入れて行きたい。

問

地域農業の振興を図るため、農用地高度利用促進事業が取り入れられている。農地の流動化奨励金、税制、金融の特典、利用権の設定などいろいろなメリットがある。これらをもつとPRする必要がある。又利用促進が進むにつれての余剰労働力を町の自主財源の確保を考え、企業立地と結びつけることはできないか。

町長

農地の流動化あるいは規模の拡大、集約化という問題、そのことよって農業の生産性を高めるこ

とは大切であり、徐々ではあるが農地の流動化は行われている。しかし急速な形で農地の規模拡大、集約化は困難とも考えるが、農業は町の基幹産業であるので、機械化、省力化に伴う余剰労働力の受皿と併せて力を入れていきたい。

農政課長

農地の利用増進するため昭和55年より事業を行っている。PRについては担当課の責任であるが、農業委員会、農協、共済組合と一体となつて、広報紙やパンフレットを出している。主旨の浸透度合を見ながら今後も細かな啓蒙を図っていききたいが、なんといっても農地の貸手側の協力がなければ出来ない。今後努力したい。



愛本発電所建設予定地（音沢地内）

行財政検討委員会の改善効果は

板川清治議員(自民)

問 経費節減を図る為、庁内組織として行財政検討委員会が1月11日に設置された。その効果は今年度予算にどのようにもり込まれているのか。

町長 最少の経費で最大の効果を上げるのは、単に一年で終るのではなく常に心がけて行くべきである。今年度は約80万円であるが、南部コミュニティと農村環境の両センター警備委託を取りやめた。今後とも総合的見直しをし、次年から予算的措置を図って行きたい。

助役

行政組織の簡素化面から、機構の見直しと人員の適正配置を57年度に向けて作業中であり、民間委託業務もあるが引き続き検討して行きたい。

問

住民サービスの向上の為、窓口事務時間の延長、あるいは日曜、祭日の窓口事務を行う考えはないか。又、職員の町民に対する接客態度が悪いとも聞くので指導方針を尋ねる。

町長

平日の昼休みは交代により、時間外については電話にて可能なも

改善効果は

のは受け、日、祭日等については戸籍関係など受付対応しているが、他市町村の状況も参考にしながら、よりサービス向上できるように検討したい。

役場の窓口は町の顔とも言われるので、従来からも細心の注意を払うように指示しているが、資質向上のために研修して行く。

問 運動公園の夜間照明は3年程度過ぎ多くの利用があり喜んでいる。一面付近民は明るさや害虫で農作物被害の発生に困っており、補償するなり真剣に調査して欲しい。

町長 国は80兆円の赤字国債の軽減を図る為行政改革中である。我町もそれを受けて合理化し、機構の一部を手直しされると聞くが、その考え方を問う。又、電算の導入や職員研修と女子の管理職登用についても具体的に問う。

町長

町民の窓口サービスの向上を図る目的から、庁舎のオープンスペース化に着手した。これは見えにくい壁を取り除き閉鎖的な状態から解放することと、各課の連携を速かにする為である。機構の見直しは提案しているところだが、単に課の廃止だけでなく、機動性を硬直化させないため縦割組織に対して、横割りの組織を重視し、プロジェクトチームを作っていく。電算業務はすでに委託しているところだが、自己のコンピューター専

オープン化された庁舎内



計画的な都市づくり

池原金与志議員(自民)

社会教育課長 石川県の農業試験場の調査によ

ると、稲の成育には照度10ルクス以上だと出穂が遅れ、15ルクス以上だと質の低下や青米が出る。20ルクス以上だと穂数が減少するといわれているが測定では7ルクス以下である。病害虫の発生についても、青島朝日町南保と共に調査をしているが大差はない。天候にも左右されると思う。

関連質問 五十里隆章(自民)

都市計画と住宅道路は、市街地の乱開発を防ぎ快適な環境を守る必要がある。計画を円滑に進めるため土地開発公社を設置するなり分譲宅地を行うなど先行投資が必要でないか。

都市計画課長

中央通り線は町のシンボルロードとして、車のみならず商店、公益施設と調和した街路樹やコミュニティエリヤの整備、都市防災など軸に計画している。住宅配置と道路で法に基づかないミニ開発は指導の強化と住民の理解と協力によって解消して行きたい。

町長

建築基準法に基づく確認申請の段階で行政指導を強化して行きたい。又、乱開発防止するという立場からも分譲宅地を行わねばならない。

入善駅より8号線へ通ずる「街路中央通り線」改良事業は、町の去玄関であり田園都市のビジョンとして位置付けされる重要な道路であるが、多くの問題を抱えている。又、市街地には狭い道路と抜け切らない道路がありいかなる面に支障がある。これら構想と計画を問う。

抜け切らない道路



中国残留孤児の対応は

広瀬義孝議員 (自民)

問 昭和57年度予算案のうちの土木費は前年対比当初予算では89%、現計では79%と大きく落ちこんでいる。町長も就任早々の町政懇談会では、町民要望のほとんどが道路問題であったと思うが、村部にはあと10メートル、20メートル残して舗装していないものや、幅4メートル未満の舗装、そして朝日町が制度化しているという私道の舗装についての具体的な計画で望まれるのか。

建設課長 町、農道合わせて延長約500キロメートルある。昭和56年現在、舗装率は62%であるが昭和60年までに80%までしたい。4メートル未満の道路については交通の安全性から改良しながら行うが、私道は補助金の交付という形で制度化したいので検討させてほしい。

問 高齢化社会への対応について総合計画にどのように計画されるのか。

町長 老人福祉は深刻な政治課題であり、生きがい、健康、生活安定の三つにつきると思うが、行政施策の一環として昭和58年に老人福祉センターを建設したいと思っている。

問 中国より肉親捜しに来日され、何の手掛りもなく失意のうちに帰国されようとする前日、土壇場で入善町出身の西村さんであることが判明した。もし、父の故郷へ帰ることを希望されるなら、行政として温かく迎えるのが人の道と思う。町長の所信を問う。

町長 日本名西村さんについて、もし入善へおいでになるのであれば、



感戴の対面 (北日本新聞社提供)

住宅については町営住宅などで十分と云えないが対応できる。就職は言葉の問題もあり職安とも十分協力しながら斡旋をしたいし、教育の問題についても教育委員会とも連携し、あるいは給食費の軽減を図るなどしたい。

そのほか、法的な問題もあるが、夢に見た自分の国へ帰って良かったというように喜んでもらえるよう協力したい。

離岸堤の設置を早急に

野坂俊一議員 (自民)

問 入善海岸の附近住民は高波の都度夜も寝られない状態で、農作物、住居に被害を出している。しかし、先日建設省の最先機関へ陳情に行つたところ、予算は2億円でありこのままだと10年先もかかるとのことである。又、黒部川堤防も未改修部分があり併せて町長の政治力と対策を問う。

平曾川が2級河川となることにより西部かん排事業との関連を聞

きたい。

関連質問 九里郁子(共産)

3月の高波で神子沢地内の田は大人の頭ほどの石が入った。離岸堤設置について早急に国、県に働きかけて欲しい。

町長 海岸保全は耕地の確保などから重要な問題であり、各関係省庁や地元の方々と十分連絡をとりながら協議し対応を図って行く。

建設課長 町の海岸線は11キロメートルである。離岸堤を全部入れることになると76基必要となる。昭和46年から現在まで27基据付けされているが、あと18基は昭和60年をめぐるとし数字的には59%完了することになる。

黒部川堤防では、本村、板屋、上飯野の2ヶ所、福島、小摺戸、浦山新が危険ヶ所とされている。全部整備されるまで何回でも陳情を重ねる。

平曾川は県議会議員の側面的援助により昇格した。西部灌排事業で改修すると地元負担25%であるが、県が全部かたがわりする。

問 企業誘致に対してはいろいろ施策を構えられると思うが、歴代の町長は何かを残していかけた。町長の考えを問う。

町長 富山日本電気機は第3期の工場拡張中で10月から操業、舟見ベア

リング機も近日工場の増設、大沢野の北陸電気工業の下請工場が誘致されると聞く。又、入善町出身の北里大学古谷教授にお会いし、企業誘致について協力要請するなど努力したい。

問 職員志気高揚の最も大切な事は、指導者とその統率力だと思ふ。能力主義あるいは年功序列主義といろいろあるが、将来に向けていかに進められるか。

町長 やる気を起こす方法として職員の仕事ぶりを正確に評価を与えることも一つと考えるが、人が人を評価するのは大変なことである。県庁においては幹部登用試験を行っているが、それで人物評価の基礎資料にするのは少し問題がある。職員を一定期間研修派遣し、レポートを提出させ資質の向上と評価の材料としたい。



要望される離岸堤

し尿浄化槽の管理について

五十里隆章議員 (自民)

問 東洋結の社宅は空家も多く管理も十分に行われていない。会社側と話し合い有効利用を図れないか。

町長

市街地化されていく中で、使われない空間も防災上ある程度必要だ。企業の所有であるが空間を有効に使われるよう折衝したい。

問

し尿汲取事業については、浄化槽協会の単価設定したものを町が業者に委託している。業者指定にあたっては許可を含めて自由競争の原理を取り入れるべきと考え

環境課長

浄化槽の維持管理について、法なり県の行政指導では、資格をもった人が県に登録し委託することになっている。その価格は協定料金の74%である。朝日は100%、黒部、宇奈月が82%、魚津は104%で

あり高くない。

問

県知事の資格取得については、協会の推せんがあることになっており、尚さら独占的になるのではないか。住民サービスを考え業者を2社ないし3社とすべきでないか。

環境課長

維持管理については2社あり、そのほか町外からも入っているようである。くみ取りについては以前は清掃センターへ搬入する量が規制されており、要請されても間に合わせることがあったが、センターも増設中であり56年度末迄には良くなる。業者は操業計画面から、他市町村と同様一社にしている。

増設された中部清掃センター



居残り保育と障害児保育の問題について

九里郁子議員 (共産)

問 町長の基本姿勢の一つに、総合計画により住民福祉の向上に力をつけることと掲げているが、共産党の予算要求の回答では、役場玄関トビラの自動化は実施するとあったが予算では削られている。その理由は何か。

町長

車イスで役場へ来る方は年に1〜2回ぐらいと聞く。風除の二重ドアが自動化で一度に開き最善でない。改良に30万円を予定していたが、押しボタンにより開けてもらえるので対応できる。

問

健全財政と行政の合理化、効率化で最大の効果を目的とするとして、職員研修に民間経営の厳しさを体験させ、町内企業へ派遣の考えだが、行政には効率性、生産性を求めること、職種によって不都合、住民サービス低下が懸念される。

また、田中儀一郎氏の町経済顧問について、町長の考えを聞きたい。

町長

企業の厳しさを体験することは職員にもプラス。労働強化でない。行政とベルトコンベアは質が違い効率化を考えたことである。田中氏の経済顧問は任期なく無報酬であり、引き続きお願いしている。

問

東部保育所での午後6時までの保育時間延長は評価するが、対応する保育配置と、もっと居残り保育の充実が大切。親が入善まで送迎は無理、どこかの保育所でもできないか。障害児保育も保育所の増員の方針と障害児の保育所入所のため、健康センターで親子の通園事業を実施する考えはないか。

町長

午後6時まで保育延長試行として東部保育所にした。長時間保育

は将来ブロック毎に考えたい。居残りにしても5時まで行っている。保育時間は11月から2月までも4時とする。国際障害者年につづけて障害児保育は、15名受け入れ4〜5名の保育が当ると思う。

問

「エサ米研究、試験実証ほ」設置の考えはないか。農業用水路の不足で田に水を満すに苦勞していると聞く。かんがい用水を常に確保するに水路改修を農家の意見を聞いて、土地改良区等に働きかけられたい。

町長

「実証ほ」設置の考えはない。農業用水は、当初は農業面で取り組み、生活用水は考えなかつた。末端で水量がたりないこと承知だが、55年度からの県営土地改良の事業もあり土地改良や県と相談し積極的に努力したい。



東部保育所

総合計画の見直しについて

福沢 万次議員 (社会)

問

昭和57年度予算中税の収入伸び率は、前年に比べて半分以上と低い。経済状況からして法人税は減額である。それと、56年度町税の現況は、予算に比べてどれくらいか。57年度見積った予算中に、事業の努力目標があるか。

町長

個人町民税は、給与所得が伸びて増加は見込まれるが、所得控除要件の緩和により、大きな増加は期待できない。
法人税は、経済成長の鈍化と電力会社の変動が激しく、確実に見込めるもののみ計上したので、減額となった。56年度の税収は、当初に比し8千万円ぐらゐ増加を期待し、57年度事業は、確実なもののみ計上した。

問

農村総合整備モデル事業は、58年度で完了だが、引き続き次の事業の取り組みは、何を主体とするか。また、土地改良総合整備事業により、町の債務負担の累積が増えるが、町財政を圧迫し、補助率の引き下げから逆に請願が出ているが、町長の考えはどうか。

町長

モデル事業の完了により、国では、次の事業の基本的考えをまと

めているようだが、実態は明確でない。

町の考えは、集落密集地の生活用排水路改修と農道舗装など、要望の強いものと、制度に合う建物など公用地に考えたい。

債務負担は、町財政の負担となり、去年補助を引き下げたが、現状では要望が強いので慎重に取り組みたい。

問

町の総合計画の見直しについて、町民のアンケートや学識経験者、審議会等で話し合うと言うが、町長の考えはどうか。

商業振興施策は

松沢 孝衛議員 (自民)

問

昭和57年度予算中、商工振興費は増額になっているが、経済の低迷から中小商工業、商店の経営は苦しく、その対策に予算面からも強く推進し振興をとめてはどうか。

町長

私も商工会の理事と兼細企業の一員として商業の実態は把握しているが、地域主導型大型店、地場産

農工一体の町と言っているが、町外就労者約4千3百人もいる。附加価値の高い工場誘致の考えと新幹線東部駅の名称について考えを伺いたい。

町長

総合計画は今迄のものを受け継ぎ基本構想、基本計画を、現在の社会、経済情勢と住民ニーズを参酌して対応したい。

工場誘致は、世界の経済と関連もあると思うが、誘致された企業が土地を十分生かしていないことについて、会社と連絡を取って計画どおり整備されるようにし雇用市場を拡大したい。

新幹線の駅名は種々あると思うが、駅の乗降に利用する者としては新川全体の共通なので、新川駅と言う名称も理解できると思うから、機会あることに働きかけたい。

業開発の調査研究には十分対応して行きたいと考える。

問

中央公園利用者の利便を考えて休憩所に売店を設置できないか。

町長

現在は品物が豊富を時期であり利用者には不便を感じさせることがないよう、売店を設置しても採算ベースに乗らないと思うから、今のところ設置を考えていない。

問

関電、北電の発電所建設問題について、今まで農民は発電所建設による冷水害になやまされていた。両電力会社は今年の雪融けを待って着工したいと聞くが町長の考え方を問う。

町長

前町長と発電両社と各々6項目

既存工場の遊休地問題について

若島 信行議員 (自民)

問

町福島地内に先祖伝来の広大な農地を提供し、工場用地としたが、新和工業の一棟の工場のみでは好ましい状態でない。経済状況もあるが町長の対応策について伺う。

町長

地区土地所有者の協力で用地提供いただいたが、オイルショックと経済の低迷で工場建設が遅れている。現在130名で部品製造を行ない100%可動に努力中で、遊休地の一部を自動車道舗装のアスファルトプラントの話あり、公害に問題がなければ地元地区の理解を願っている。豊田金属の遊休地は盛土流失や病虫害の巣にならぬよう対策を申し入れをしている。

問

新幹線建設は利便性から期待は大きい。騒音、振動、公害などから町内を通さないでほしいと言うことや、地元の一部負担という

の確認事項を交換しており、会社側は今年いっぱいには調印したい希望のようだが、行政と会社の責任者が確認した事項は、相手が誠意をもって話し合い合意に達しなければ着工しないことになっている。この取り定め事項を腹に持って進めたいと思う。

事もあり問題でないか。町長の考えを問う。

町長

近く詳しいルートは公団から発表されると思う。自然、社会、経済、技術の条件を総合判断されるが、騒音、電波障害、稲作などに与える影響が心配で、地元の方皆さんの意見を聞き町民の利益を守るよう十分改善を要求することに対応したい。



活用、望まれる工場遊休地

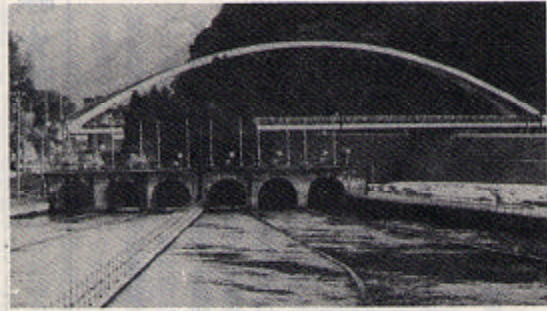
水に関する諸問題について

舟本傳一議員 (自民)

問 経済の成長とともに水の需用が増大しているが、黒部川の豊富な水資源は各方面から注目されている。町民にとって農業用水、地下水、防火用水、生活用水等貴重な資源であり、この需給について将来を展望した町長の所見を伺う。

町長 自然は太陽と水と土地で支えられ、水は生命の根幹であり黒部川の水は一つの財産である。産業は水を必要とし入善町の水は町発展の可能性を持っている。通産省の調査では町の安全揚水量は38万7千トンで、現在の利水は5万6千トンと言われている。常にこの良質の水の涵養を図ることが大切でありこの水を企業誘致に生かしたい。

問 北陸、関西、両電力会社の発電所建設により町民に多くの不利益



合川用水沈砂池 (愛本)

が予想されるが、両社との確認事項に地域協力の問題がある。これについて入善町の立場を考え町長は両社に誠意の証として何を求めるかお尋ねする。

町長 町民の利益を図ることを基本的な考えとして、議会と相談しながら煮つめて行き交渉に当り、具体的な問題の説明は交渉の過程中的ことを理解いただき説明は差し控えたいと思う。

問 入善町を農工一体の町に言うが、黒部川の水と電力を利用する地場産業の育成と関連産業を起すことが大切であると思うが、町長は農工均衡ある振興策に企業誘致をあげている。これについて町長の所見を尋ねる。

入善町の都市開発構想は

大林政雄議員 (自民)

問 一昨年来入善駅に特急停車することで関係機関へ陳情中である。朝日、黒部、滑川の各市町も同じく運動しているが、陳情合戦に公費をつぎこむことは一考を要する。特急停車の指定を受けんとするなら、ふさわしい環境作りこそ急務でないか。即ち町のビジョンであるテクノポリス構想として、駅周辺における駐車場等の敷地の確保、駅前と国道8号線を結ぶ幅員20mの中央線の早期着工、他市町民の入善駅利用に伴うステーションデ

町長 入善町の企業や産業構造を動案して、既存企業の育成と豊富できれいな水、勤勉な労働力を素材に、時代の先端を行く附加価値の高い産業の誘致は理想である。これはなかなかむずかしいが町のPRに努め精一ぱい努力したいので議員皆様の協力をお願いする。

パートの設置などである。然るに総合計画の三ヶ年実施計画では、中央線に関する経費は100万円の計上であり、その実施を第一の目的とし建設課より分課して都市計画課を設置したにもかかわらず、本来の主旨から外れている。具体的な条件整備を行うなど、行政的受皿作りこそ特急停車の道が開かれるので、町長の所見を伺う。

町長 特急停車の指定駅に伴う対応策について入善町の表玄関にふさわしい駅前整備は重要である。現駅前の密集市街地は住宅と商店が混在しており、中央通り線の整備に当っては路線整備だけでなく面的な整備も考えねばならない。これらの実現を図るためには昨年来よりこの土地利用計画について県や入善土木とも協議中であり、併せて住民や関係団体には理解を得るよう努力してきた。地元関係者には道路幅員の点、あるいは既存の商店街が東西に二分されるなどから、総論賛成、各論反対の意見もある。

問 現在中町線の都市計画事業は、当初計画を変更して君島門山寺線と結ぶことにした。一つの町段階で施行場所は一点となっているので、あと2年程たつて8号線に向けての道路事業に着手しなければならぬ。それまで住民の方と十分なるコンセンサスを獲得を進めたい。

町長 公共事業の入札をめぐる起き

た業者の談合問題は国会、県議会でも入札制度のあり方を中心に論議されている。我町も町発注工事の談合疑惑の根絶をはかるのに努力中とは思いますが、公平な入札制度維持の対応策を承りたい。

町長 談合防止の方法として、入札参加業者を増加する、落札の結果を広報で公表するなどの対応策を考えているが、行政だけではなく業者の自覚が問題解決の根本である。そのほか中央建設業審議会でも再三審議されており、まもなく結論が出ると思うので、十分参考にしながら入札参加者選定要領を作り工事発注基準、指名の基準、入札参加基準など作って行きたい。



建設中の幹線(市街地東町)

採択された請願★陳情

※町道神林入善中学校線、町道上
諏訪線の消雪工設置に関する請
願

※道路の拡幅改良に関する請願
(青木地区)

※地区中央公民館雑庫内部改装及
びこれに代るべきプレハブ雑庫
建設に関する請願(小摺戸地区)

※上原保育所線延長に関する請願
※県営土地改良総合整備農道舗装
事業に対する町補助率の引上げ
についての請願(青木、小摺戸、
野中地区)

※横山小学校便所水洗化に関する
請願

※生活環境道路舗装に関する請願
(神子沢)

※道路側面側溝新設方請願(横山
1区)

※造園工事についての請願
※公民館取り壊し助成についての
陳情(野中地区)

※道路舗装及び片擁壁(コンクリ
ート)拡幅方請願(横山1区)

※生活排水路改修についての陳情
(神子沢)

※道路拡幅河川改修方請願(青木
地区)

※非補助農道舗装事業に対する町
補助金交付について請願(新屋

★議員提出議案

第9次道路整備5ヵ年計画の策定に関する決議

道路は、経済社会を支える基幹社会資本であり、地域住民の日常生活における基盤としても大切なものである。

昭和57年度を最終年度とする第8次道路整備5ヵ年計画は、行財政再建計画を先行する政府の方針のもとに完全達成されず終了する見通しとなっている。地方の時代を迎え道路の充実こそ快適な住民生活を営む施策であり、強いては財政再建に結びつく鍵であると考えらる。

当地方の道路整備の現況は、満足に交通を確保できる実情でなく、交通事故対策としても道路の整備促進は緊急を要するものである。従って政府におかれては、揮発油税及び自動車重量税等の財源を確実に充当し、昭和58年度からの第9次5ヵ年計画にあたって大幅な事業枠の拡大を図り、我々が熱望する道路整備の推進に充分応えられるよう対処されたい。昭和57年3月19日

富山県下新川郡入善町議会

提 案 理 由

地方の道路は、社会経済の効率化と地域住民の福祉向上のため基幹的社会資本であります。この整備促進は地方自治体の重要な施策であります。昭和57年度は国の第8次道路整備5ヵ年計画の最終年度であります。完全達成はおぼつかない情勢です。このなかで第9次計画の策定が進められるにあたり地方の時代に向けて、地域住民の最も大切な道路整備の充実に関して決議するものである。

- ①生活及び就労相談
- ②健康及び医療相談
- ③健康増進に関する相談
- ④生業及び就労の指導
- ⑤機能回復訓練
- ⑥教育講座の実施

に意欲的に取り組んでいる市の姿勢に敬服した。高齢化社会が進む現今、米年度には非着工すべきと痛感した。翌18日に大津市より約20km対岸にある栗東町に行った。この町は国道や名神高速のインターチェンジの設置により、田園町から工業地帯へと変身し人口3万7千人となった。住民の多様化す

県外先進地視察記

新総合計画の策定に向けて

総務委員長 大林政雄 議員



羽中市文化会館

るニーズに配慮の中で日曜窓口を開設し住民、税その他証明関係の発行業務が行われており町民より好評を博している。当町でも十分検討しなければならぬと感じたところである。次いで統合給食センターを見学。小学校8、中学校2、幼稚園7、保育所9、調理場1、以上27施設分8千500食分を事務、栄養士、調理、配送員など計32名で運営されている。経費節減、設備の合理化、衛生管理等メリットを鑑み積極的に取り組むことを進言して行きたいと思いつつ更に体育館を訪れた。面積2千800㎡、工費施設は3億7千万円でこの施設は全国大会に使用されるとあって、広さ、設備に驚嘆した。翌19日、人口2万9千53人の羽中市役所を訪れ、副議長並びに各課長諸氏より市全般に亘って説明を受け、一行の最も関心の深い文化会館へ案内を受けた。会館は運動公園9.4haの一画に、建築面積3千㎡3階建の中に大ホール、大小会議室、視聴覚室等が見事に設備され、教育、文化の中心施設として市民の殿堂にふさわしく広く利用されていた。運動公園には、体育館、野球場、武道館、弓道館、郷土資料館、老人福祉センター、高校など施設が集中しており、今後施設に再考させられた。我町も8号線へ通ずる道路改良へ向け、当然中央公民館の移転新築が考慮しなければならぬ。二十一世紀のビジョンを脳裡に絵描き帯路についた。以上で委員会の視察報告とします。

文教厚生施設を視て

文教厚生副委員長 広瀬義孝 議員

今回2月8日より10日迄埼玉、神奈川両県の学校及び公民館、行政機構等の視察について報告します。先づ埼玉県宮代町であるが、東西2kmに南北8kmの東武鉄道沿い3駅、16kmで細長く都心まで一時間の町。現人口二万九千五百人の我が人善町と同人口。五十六年度予算三十六億円余、五課二局あるも課長、局長なし、町長、助役に直結し決済は町長に於いて行う。問題が起るとプロジェクトチームを作り処理に当る。人件費は町税収入の50%以内、町民100人に1人の割合。保育所は私立が多く、学校給食なし、町長の公用車もない。電算機の導入が進んで一部民間委託もあるとのこと、大工場はなく高層住宅もない。次に町立コミュニティセンター進修館であるが、役場庁舎と廊下続き九億五千万円の建設費と聞く。形、部室の間取り、実に百聞一見にしかずだが町民に馴染んだ感じ、特産物のぶどうやぶどうの木を模した建物及び備品である。特に議場は円卓式、議長、議員、三役等は全部円の中で会議する。終れば小ホールとして一般に開放される。各部屋の数は和室二室を含め十三室もある。延二、八百余平米、とにかく町民の中に解け込んだ建物、公

民館と言ったのがびつたりと感じ。

次に小学校、近代的な建築美の中で特に児童の元気さくに敬服する。二階の開放された廊下の柱に47都道府県名が記載されている等、生徒の校内活動、打合せの目安になっているのが印象に残る。第二日は横浜市金沢区並木地区へ、市立第一小学校を振出しに視察したが、比の地帯は横浜市が都市計画に依り昭和45年から海岸地帯を埋立てにより造成したと云ふ。最高十七階建が三棟の外、数階建てのマンション等林立する新興住宅地、港湾関係の人達が大半とのこと。低く見える建物は学校、保育所と



横浜市並木第一小学校

思えば間違いない感じ。第一小学校であるが、昭和53年開校、総工費六億円余り、普通教室、特別教室五室だが運動場の排水が完備され雨天後もすぐ使用出来るとのこと。教室は体育館、特別教室等で囲まれ騒音は教室等には届かないように配置、設計されている。問題として校長室、職員室等管理関係室は北側に位置する為、南側に設置した方がよかつたとか。又思い切った近代的な関係上、多少無駄な面もないとは言えないとのこと。次に第二小学校であるが第一に比べ地味な感じがしないでもないが、思い付きのま、尋ねれば第一小学校の無駄な面は思い切り削除したとか。建築方式備品等につ

計画的事業推進を視て

産業建設委員 野坂俊一 議員

2月18日から20日にわたり、愛知県師勝町並びに田原町を視察した。視察目的は農業振興計画の促進、都市計画の推進及び企業誘致の現況、以上3点について認識を深めるためである。先ず師勝町は人口3万4千人。町予算は54億8千円であるが、近年名古屋のベクトルタウン的要素を補充、急速に発展中である。従って町の重要施策は都市計画に集中している。特に主要幹線路(16m道路)東西、南北に各3幹線を基準に町道の舗装8千300mを実施

いても実用的に設計施行されている。校長から設計図面等頂戴したがユニークな校長の人格、説明も的を得ている。最後に第三小学校であるが第一小学校と第二小学校の長所を取り入れた建築方式が一番よいように思われる。特にこの三校については全く新しい土地に建てられた為、現場教師の意見が取り入れられていないのが欠点のように、これからの当町の建設について参考になることが多いと感じた。最後に富岡中学校を視た。三日間を通じて視察は箇所を追加や、一時間以上二時間近く予定よりオーバーもしたが、全員真剣に視察したことを何よりの成果と思う。

町として発展して来たが、昭和50年以来、三河湾臨海工業地帯に指定され急速に発展している。町の新総合計画も細部にわたり計画され、将来へのビジョンも適確に立てられ成果を上げていく。町の地形上南北は海で、北部地域は臨海工業地帯、南部は農業地帯、中部丘陵は行政、商業地帯である。以下細部について触れて見ると、

①農業振興計画について
水稲から蔬菜園芸、畜産に大転換しつつある事で、専業農家70戸、兼業農家20戸でキャベツ・トマト・セロリ・菊・カーネーション栽培に変わっている事である。その結果、1戸当り純利益は専業農家で70万円、兼業農家で30万円と驚くべき程高い。これらは徹底した土地改良事業、流通機構の促進、加工事業の体制整備をはかっている事である。

②企業誘致について
県企業局と共同で臨海工業地帯として120kmを埋立て、トヨタ自工、三菱セメントを中心に誘致を図っている。従って町予算67億500万円の内約20億円が企業負担で重要な財源であり重視すべきである。しかしながら問題点として住宅、上下水道の整備が要求され、60年を目標に町営50戸、公団住宅200戸、県営分譲50戸を推進中である。下水道整備も10幹線延長8.3km、排水ポンプ施設3ヶ所を進めている。以上報告して、今後の施策に十分活用したい。

委員会審査報告

総務委員会

委員長 大林政雄議員

昭和57年度は、国の臨調
答申による財政再建のもと、
徹底した歳出の削減が図ら
れて、町予算も非常に厳し
く手堅く編成されている。

町税は対前年より鈍化し
地方交付税の伸びは義務的
性格のものを算定されてお
り、地域の特異性、独自性
の強いものの算入は少なく
住民の要望にそえない要因
となっている。町発展には
自主財源に活路を見出す
べきで、また借入金金の償還
に耐える財政構造を作り上
げることである。
委員会の審査から意見、要
望を述べると町税について

は公平の原則で適切に評価し、確実
に収納見込みを立てられ不平不満の
起きぬようお願いする。臨調の影響
が心配された民生・衛生・教育の
歳入増加は高く評価するが、農林
水産・土木費の歳入減少は、事業
完了の近づいたものもあるが、農
工一体化を目指す町として遺憾で
あり、新規施策の取り入れを望む。

歳出面では、経常経費の削減に
つとめ総合計画の策定に当っては
英智を結集して樹立に当たりたい。
公債費については、高金利のものは
逐次低金利のものへ移されるこ
とを要望する。
以上の意見を申しのべて、当委
員会に付託された案件については、
すべて可決すべきものと決定した。

文教厚生委員会

委員長 池原金与志議員

地方自治法施行以来35年、
近頃は地方の時代と言われ
ているが、現実には非常に厳

しく、国の施策が地方財政に大き
く響き、町予算編成も苦慮された
ことがわかる。

当委員会所管について、高齢化
社会対応の老人福祉、21世紀に向
けて教育行政に努力されたが、高
額医療費の貸付について、手続方
法からして医療機関との話し合い
による委任払い制度の再考を願
いたい。
つきに、老人保健総合対策には、
老人医療体系と福祉の一元化を検
討されたい。

老人福祉センター建設について、
健康教育、検診、入浴、レクリエ
ーションなど一環施設の検討と成
人病予防対策推進を願う。
交通安全施策について、環境保
健課と建設課にまたがり、時代に
即応し、体系的にまとめられたい。
保育問題については、3才未満

児の保育と幼児教育の見直し時期
に来ていることを申し添える。
清掃には受託業者の企業経営が
労働者へしわよせにされてはなら
ず、また、住民からの苦情も起ら
ぬよう望む。
教育について、校舎改築が進め
られているが、格差の起さないよ
う財政事情もあるが総合計画の中
で早期完了を望む。舟見体育館の
計画は、学校建設と考え合せ悔い
の残らぬよう。また、入善高校の学
級増と青少年の非行防止に努力さ
れたい。

以上の意見を申しのべて、当委
員会に付託された案件については、
すべて可決すべきものと決定した。

産業建設委員会

委員長 西尾三郎議員

当委員会に付託された案件は全
て可決、採択すべきものと決定し
た。委員会の意見要望は次のとお
りであるが、執行にあたって町当
局は十分留意願いたい。

国・県の投資的補助事業の減額
から産業建設関係は最も大きな減
額となっている。水田利用再編対
策、農村総合整備モデル事業、海
岸保全施設整備等は住民の要請が
強い事項であり、また、道路舗装
費は増えたと言ふものの住民の要
望を満すには程遠い様子である。

無雪害の街づくり、防雪道路にも
力をそそがれたいし、景気刺激に
工事発注も上期に施行されるよう
検討されたい。
なお、国道に通ずる君島山寺
線の新設改良と板屋から下上野へ
の農免道路の足がかりがついた事
は、高く評価するとともに生活環
境の整備には町財源を考慮して、
緊急を要するものから進められる
ことを要望する。

編集後記



新年度を迎える3月定例議会は、
昭和57年度予算を始め盛り沢山の
議案が上程され、審議も長時間に
及びました。
特に今年度は国の行財政改革な
どの影響により補助金の伸び悩み
に加え、厳しい経済事情から税収の
増加を見込めない為、例年と比べ一
般会計予算においても前年対比1.5
%増の超緊縮型予算となりました。
決して明るく希望に満ちたとはか
り言えない内外の情勢ですが、新
総合計画の策定に向けて議会と当
局が一九九〇年まで皆さんのご期待
にそうよう努力する決意でありま
す。ここに、第35号をお届けいた
します。

編集委員

- 上田義信 西尾三郎
- 石川昭男 上島藤吉
- 大林政雄 本田幸光
- 池原金与志 九里郁子